2. ME 機器の中央化と問題点

青 木 範 充 (健康保険八代総合病院 器材部)

当院ME室は、器材部の一部門として隣接して設置されている。ME室には臨床工学技士1名が配置され、医療機器 (Medical Equipment) の中で、主に病棟・外来で使用されているものについて中央化をすすめてきた。

中央化された機器として、

1. 人工呼吸装置
 2. 壁掛け式吸引器
 3. 吸入用コンプレッサー
 4. 超音波ネブライザー
 5. 自動手指洗浄消毒装置
 6. 電子血圧計、水銀血圧計
 7. 電子体温計
 8. 血糖測定装置
 9. 酸素ボンベ用レギュレーター
 10. 聴診器
 11. 喉頭鏡
 12. 各種ランプ
- などがある。

これらの機器については、現場で使用されない時はME室に返却されるものと未使用時も現場に保管し、故障時あるいは定期点検時のみME室に戻されるものがある。

使用時に異常が起こったり使用不能の場合は、ME室に連絡あるいは返却されれば適切な対応策がとれるシステムが確立している。

ME機器の中央化には、各部署で管理していた時に比べて保有台数が増加する、そのため経済的裏付けが得られた場合には、中央化は円滑に運用される。絶対数が不足したままで中央化を行うと、病棟間で貸し借りを行うなどの不都合が生じる。その他中央化に伴う利点および問題点について述べる。

3. 手術室でのME機器の多数同時使用の現状と問題点

久 保 仁, 渡 邊 恭 通, 谷 田 勝 志, 藤 田 輝 巳,
田 中 克 己, 松 本 毅, 小 倉 信, 河 手 良 一,
齋 藤 英 昭 (東京大学医学部附属病院材料部ME機器管理センター)

医療技術の進歩に伴い手術室における医療機器の種類はますます増加している。たとえば電気メス、アルゴンビームコアグレータ、術中超音波診断装置、各種患者保温装置、輸液輸血加温装置などがあげられる。これら多数の高消費電力機器を同時使用する機会が増えてきたため、(1) コンセント集中による容量オーバー、(2) モニター補助電源からの他機器使用によるモニター機器へのノイズの混入、(3) シリンジポンプ、輸液ポンプ用テーブルタップより複数の大型機器、保温機器を使用することによる等電位接地システムの崩壊、などの弊害が生じ、患者や医療従事者にとっての安全性に問題が生じている。